



石港遺跡の発掘調査（現地調査）が終了！！

信濃川大河津分水路河川改修事業に先立ち、令和4年度から実施していた石港遺跡^{いしみなと}の現地調査を令和7年度に終了しました。

石港遺跡は、弥生時代中期から古墳時代後期にかけての遺跡であり、特に古墳時代では、前期から後期まで約350年間継続的に集落が営まれていました。前期には首長居館^{しゅちやうきょかん}と思われる方形区画や山陰・瀬戸内地方などの遠隔地から持ち込まれた土器のほか、中期以降では、当時新潟でまだ生産されていない須恵器^{すえき}が県内最多級に出土しています。

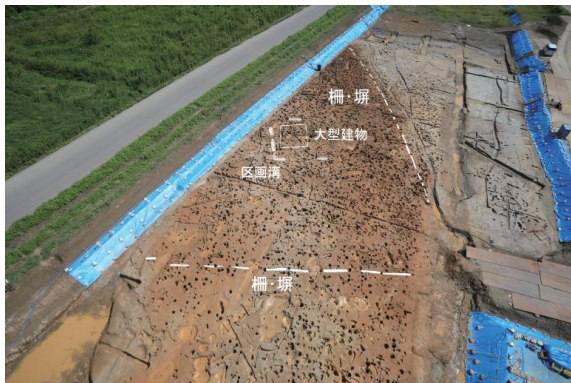
今年度の調査では、古墳時代前期末から中期初頭の遺構から、スクレイパー（皮なめしに使用した石器）などの石器を製作したと思われる剥片や細かな欠片が多く発見されました。その他、鍛冶^{かじ}関連や紡織^{ほうしよく}関連の遺物もみられることから、ここでものづくりが盛んに行われていたことが分かりました。

石港遺跡は、日本海から越後平野への玄関口として交通の要衝となるこの地で、様々な生産活動を行いながら政治や交易の面で重要な役割を担っていたと考えられます。

今後は、検出した遺構や遺物の整理・分析を行い、遺跡の姿を解明していきます。



石港遺跡 近景（日本海側から）



古墳時代前期の方形区画と建物群（西から）



搬入土器や模倣土器 ※石川県以西の特徴をもつ



スクレイパー（左）と続縄文土器（右4点）

石港遺跡出土品展



令和7年9月13日～11月3日に、信濃川大河津資料館で「石港遺跡出土品展—信濃川が繋いだ古代の文化—」が開催されました。大河津分水の「令和の大改修」事業とともに遺跡を紹介しました。市内外から多くの方にお越しいただき大盛況でした！

令和7年度発掘調査速報

【本発掘調査】

●野沖遺跡・仲沖遺跡〔富永・吉栄地区〕

県営ほ場整備事業（富永・吉栄地区）に伴い、野沖遺跡と仲沖遺跡を発掘調査しました。

野沖遺跡からは、奈良～平安時代の土師器や須恵器、鎌倉～室町時代の青磁・白磁、仲沖遺跡からは奈良～平安時代の須恵器や土師器が出土しました。両遺跡からは墨書土器が出土しており、周辺の江添遺跡群や中組遺跡との関係性からも、古代においてこの地域は役人などがかわる生産・流通の要衝であったと考えられます。



野沖遺跡・仲沖遺跡 近景（南東から）



野沖遺跡 B 区 井戸状遺構



野沖遺跡 B 区 木製品

墨書土器ってナニ？

文字が書かれた土器のことです。文字は、施設名や人名、役職などが書かれることが多いですが、当時誰もが文字を書けたわけではなく、役人など地位の高い人物がいたことが考えられます。



仲沖遺跡の墨書土器

【試掘・確認調査】

●浦田遺跡〔野中才ほか〕

大河津分水路改修事業（掘削土処理工事）の実施に伴い、令和6年度に試掘・確認調査を実施した結果、古墳時代後期を主体として古代まで続く遺跡であることが分かりました。

令和7年度は、令和6年度に未実施の範囲を調査した結果、遺物は出土しませんでした。少量ながら遺構を検出しました。市内で確認されている古墳時代の遺跡は少ないですが、当地域で古墳時代の人々が活発に活動していた様子がうかがえます。



R6 年度調査の出土遺物の一部

●大河津分水路右岸〔新長・野中才〕

大河津分水路河川改修事業関連工事のため行った試掘・確認調査で、古代の土師器や須恵器、古墳時代後期と思われる土師器が出土し、浦田遺跡の南西側に遺跡が存在することが分かりました。石港遺跡や浦田遺跡など、大河津分水路周辺に多く存在する遺跡との関連性がうかがえます。



出土遺物の一部



文化財保護事業

文化財保護事業—指定文化財等保存事業補助金—

市内に所在する文化財を後世に継承していくため、市では文化財の保存修理等にかかる経費の一部を助成しています。

●若宮社（市指定建造物/雀森）の本殿保存修理

若宮社は、拝殿後ろにある本殿が1700年代中期～後期の建築で、拝殿は焼失後、明治38年（1905）に再建されました。創立年代は不明ですが、村の産土神として大切にされてきました。地域の中で建築年代が最も古く、再建された拝殿は近代の神社建築として均整のとれた建物であることから、平成8年（1996）に吉田町指定文化財となりました。（※現在、燕市指定文化財）

今回、経年劣化で腐食が進む本殿の土台の木材を取り替える修理を行いました。



若宮社拝殿正面



本殿（南東から）

- 文化財の保存修理には補助金が活用できます。
- 修理を計画の際は、まず社会教育課にご相談を！



『ブラつばめ』第6弾「燕教会編」公開！！

NHK番組「ブラタモリ」を参考に、市内に所在する文化財などをテーマに歴史・文化を紹介する動画「ブラつばめ」を制作・公開しています。

今回は、燕市中央通二丁目にある燕教会をテーマに、教会と燕の金属産業との関わりについて、訪ね人とともに迫ります。動画は、燕市公式ホームページやYouTubeで見られますので、ぜひご覧ください！！



燕教会外観

【燕教会とは？】

金物問屋の久保田重松が、昭和5年（1930）に私財を投じて燕市中央通に建築した県内でも数少ない歴史的キリスト教建築です。令和3年（2021）に国の登録有形文化財に登録されました。設計は、日本各地で多くの西洋建築を手掛けたウィリアム・メリル・ヴォーリズと伝わります。

動画はこちら
（過去の動画も視聴可能）



燕市の文化財紹介

●燕市指定文化財(有形文化財)「長善館所蔵資料」 追加指定!!

指定年月日：昭和50年(1975)2月25日

所在地：燕市長善館史料館(粟生津)

長善館は、天保4年(1833)に鈴木文臺すずきぶんたいによって粟生津あおうづに創設された私塾です。文臺てきけん、惕軒しえん、柿園げんがく、彦嶽の館主と先生が明治45年(1912)の閉館まで、約1,000人の門下生を教育しました。

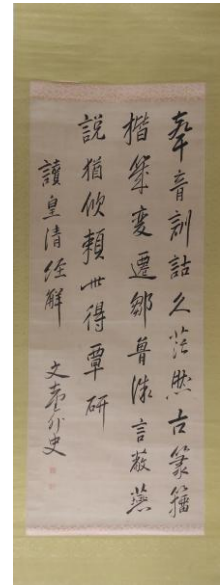
幕末から明治年間にかけて作成された歴代館主や門下生たちの書画や工芸品、長善館の蔵書が市の文化財に指定されています(23件158点)。

この度、長善館が存続した時期と三代館主鈴木時之介ときのすけ(彦嶽)存命期に作成された文書群と書籍の922件(1,025点)が、学塾の運営実態などを示すとして、新たに追加指定されました。

長善館史料館では、市指定文化財をはじめ多くの所蔵資料を企画展で展示していますのでぜひご覧ください。



初代館主 鈴木文臺



市指定文化財
文臺筆「讀皇清經解」

〈長善館史料館〉

ところ：燕市粟生津97

開館時間：午前9時～午後4時30分

お問合せ：0256-93-5400

〈長善館友の会〉

長善館の功績を後世に伝えていくための活動をしています。会員随時募集中！詳細は長善館友の会事務局(長善館史料館)まで。

所有者・管理者の皆さまへ

大切な燕の宝である文化財を守り伝えていくために、文化財所有者・管理者の皆様には日頃からその保存管理に努めていただき、ありがとうございます。

所有・管理する文化財について災害や経年などによる被害や異変が生じたとき、または何らかの変更を加えるときなどは、事前に教育委員会(社会教育課)へご相談をお願いいたします。

例えば…

- 代が代わり、所有者を変更した。
- 博物館などから借用したいと依頼がきた。
- 文化財が傷んでしまっているので、修理したい。
→補助金制度があります。計画の早い段階でご相談ください。
- 地震や大雨などにより文化財に被害が出た。



・・・など

☆文化財に関するご相談は、社会教育課文化振興係(☎：0256-63-7002)まで